

## 5 意見等について

### 「ゆ華」を含む千里浜IC周辺の将来ビジョンを示せ

北陸新幹線金沢開業を間近に控える中、第5次総合計画、観光振興ビジョンに基づき、滞在型観光の推進、観光交流拠点整備を進めていく。

周辺整備のコンセプトは、宿泊施設や温泉の活用、能登半島（世界農業遺産）のポータル機能の付加、自然栽培、千里浜砂像などの羽咋オリジナル資源の活用である。

北陸新幹線開業を追い風に観光客を市内に呼び込む拠点を、県との連携により整備していく。（平成26年度に検討委員会設置予定）

### 行政は、宿泊施設を取得、運営すべきではない

宿泊施設を所有している県内の自治体は6市5町（23施設）であり、観光振興及び地域への経済効果の波及を図るには、宿泊施設の存在、役割が大きい。

この数年間で民宿等が10軒程度廃業しており、本市の宿泊可能数が大きく減少している中、また、民間による新規宿泊施設の開業が見込みにくい中、他市町の状況からも、行政が主体となり宿泊施設を確保することで滞在型観光の推進と地域経済の波及効果を図ることは、十分意義があると考えている。

また、宿泊施設は、雇用面でも大きな効果が期待でき、若者の定住促進にもつながるものである。（経済波及効果1億8,000万円）

運営については、指定管理制度（プロポーザル方式）を導入し、民間のノウハウを活用する。

### ユーフォリア千里浜以外に温泉施設が必要か

ユーフォリア千里浜は、温泉やプールを備えた市民の健康の増進と体力の向上を図るための施設であり、宿泊施設・観光交流施設である「ゆ華」とは目的や内容が異なるものである。

宿泊者への夏季以外のユーフォリアプール利用など施設間の連携を深めることで相乗的な効果を発揮させたい。

## 指定管理者に対し、補助金支出（赤字補てん）を行うのか

近年の経営状況等を踏まえると、十分採算に見合う運営が可能であると判断しており、市からの運営補助（赤字補てん）は考えていない。

なお、施設本体の状態は良好であり、当分の間、大規模改修は必要ない状態である。

## 「ゆ華」用地の宿泊施設以外の利用を考えているのか

宿泊施設の少ない本市にとって、「ゆ華」の宿泊能力は貴重な財産であると考えます。施設は、建築後19年経過しているが、十分使用できる状態であり、当面、宿泊施設としての利活用を進めていく。

併せて、「ゆ華」を活かしたインター周辺の整備についても積極的に進めていく。

## 市が「ゆ華」を取得した場合、税の減収額はどれくらいか

税金については、固定資産税 992 万円、都市計画税 191 万円、合わせて 1,183 万円の収入がある。（平成 25 年度分）

市の所有により税金は、1,183 万円減少するが、固定資産税の減収分については、普通交付税により 75%補てん（744 万円）されることから、実質の収入減額は 439 万円となる。（1,183 万円 - 744 万円 = 439 万円）

なお、入湯税（年間 130 万円程度）は、これまでどおり市の収入となるほか、「ゆ華」の経済波及効果は、1 億 8,000 万円と試算される。

## 市が「ゆ華」を購入しない場合、どのような影響があるか

京都市職員厚生会では、施設の売却を決定しており、市が購入しない場合は、競争入札での売却になると推察する。

具体的な内容、条件等については不明であるが、土地利用、施設利用については、所有する者が決定することになる。

## 「ゆ華」の購入価格について

1億3,000万円は、あくまでも本市（行政）との取引を前提とした京都市職員厚生会の希望価格であり、決定額ではない。

できるだけ安価に取得できるよう交渉していきたい。

## 市民や関係団体、議会への説明が不足しているのではないか

これまでの経緯や市の方針案については、12月議会の提案理由、質問、議会全員協議会などで説明している。

また、地元や関係団体を対象に説明会（12/25、12/27開催）を開催し、意見等を伺っている。

広報紙（3月号）で市民に説明する予定であり、今後も懇談会等で説明していきたい。

## 京都市職員厚生会は、なぜ「ゆ華」を手放すのか

京都市職員厚生会は、市からの補助を受け、「ゆ華」の建設、運営等のほか各種厚生事業を行ってきたが、京都市議会からの互助会厚遇批判を受け、さまざまな厚生会事業の抜本的見直しを行う方針である。

その一つに保養所の廃止があり、固定資産税、修繕費等の負担の削減を図ろうとするものである。